

長泉町・さわやかハイキング報告書

通算山行NO	NO. 103	報告者	石和加代子
年 月 日	2011年04月10日(日) 小雨のち晴れ	2万5千	秦野
山 名	東丹沢 塔ノ岳(1491m)		
体力度=3・普通 技術度=3・普通 道標=有り トイレ=各山小屋に有り 展望度=良い 三角点=塔ノ岳 等級=三等			
<b>今年も宮川さんの慰霊登山</b>			
コース とタイム	下土狩駅5:00—県民の森 駐車場発7:50—二俣8:10—小丸尾根—二俣分岐10:25—大丸(1386m) 10:35—金冷シ10:55—塔ノ岳11:15—遭難場所12:25 慰霊の集い—堀山の家12:40~14:25—勤七沢林道—二俣—駐車場着15:15—山北さくら湯発17:00—下土狩駅着18:15		
標 高 差	上り 県民の森駐車場450m~塔ノ岳1491m=約1041m 下り //		
参 加 者	CL・後藤隆徳、伊藤従人、原田伸一郎、永尾広、土屋弥生、河野光江、峰田光江、小松真明、小松京子、村山忠彦、天野和子、大場雅子、石和加代子、一般・松岡夫妻=15名		

故宮川寿夫さんの慰霊登山は会として今回で4回目となる。あの3月29日からもう3年も経つのだ。参加者の約半数が宮川さんにお世話になっていた。

昨日は雨。夕方には雨が上がり、今日の予報は晴れ。久しぶりのマイクロバスでのハイキングとなった。JR 渋沢駅の構内にあるトイレを借りる。男女別で一つずつしかないが、とてもきれいだ。県民の森へはしばらくバスで道迷いをした。標識も小さく、簡素な所だ。

霧雨が降っていてどんより沈んでいる。思わぬ天候にちょっとがっかりしながらも、ザックカバーをかけ、カッパをはおったり傘をさしたり、各自身支度をする。

舗装された林道を二俣まで歩く。左手の沢を渡って小丸尾根を登っていく。カッパで蒸れて暑い。けっこうな急登だ。二俣分岐に着く。



左へ行くと鍋割山だが、塔ノ岳へはここを右折する。このあたりはブナの大木がありおだやかな雰囲気だ。大丸の道標があり、塔ノ岳まで0.9 km。指先が冷たくなってきたので手袋をし、さらに進むと金冷シ。

登山者が急に多くなる。左折して木道や階段を上っていくと、塔ノ岳山頂に立つ。今年も展望はない。トイレと記念写真をすませ、すぐ下る。金冷シを今度は左折。馬ノ背と呼ばれるヤセ尾根を通り、花立山荘を通過する頃には霧がはれて、眼下に秦野市街、相模湾、真鶴半島が見えてきた。木と石の階段が長〜く続く。年間を通して登山者が多く、ずいぶん整備されているが、木の根っこがあらわになり、土が掘れていて痛々しい。

先行の後藤講師と天野さんが準備をして、宮川さんの遭難場所（大倉尾根29番近く）で待っていた。堀山の家の方がお花をあげてくださっていた。持参した花を加え、線香と甘党の宮川さんに和菓子を供え、岳人の歌を合唱して、ご冥福をお祈りしました。ヘリコプターで吊上げられるのを見たという人も声をかけていかれた。まさに常連さんとタイムトライアルをしている人が多い独特のコースだ。



そして、すぐ下の堀山の家で昼食と歓談。お酒やなべいっぱいのおでんをいただく。けっこう体が冷えていたのでありがたい。だるまストーブも燃えていた。MD コンポが登場してジャズをかけてくれ、先代の小屋番さんの焼香台が設けられていた。遭難当時もずいぶんお世話になりましたが、今日もあたたかい心遣いに感謝しきりでした。みんなでにっこり写真撮影。

たっぷりの飲食と気持ちを満たした堀山の家を後にし、勘七林道を下る。二俣に出て、朝歩いた林道には、こぶし（たむしばかも）の白い花が開き、山桜はちらほら。岩崎ドライバーの待つバスに乗り込み、風呂は山北駅の近くの「さくら湯」へ。ちょうどさくら祭りの時で人が出ていた。入浴後は休憩室に行くことなく（5時閉）、お花見へ。御殿場線の桜の名勝でポスターを見かけるかの地であった。

3. 1 1の東日本大震災から1か月になるが、まだ余震はあるし原子力発電所の事故処理

のめども見えない中ではあったが、この宮川さんの慰霊登山をみなさんと無事に済ませることが出来てなによりだったと胸を撫で下ろした。

なお、宮川家から小屋休憩料などご援助を頂きました。有難うございました。御礼を申し上げます。

### 後藤講師の話

- 1、単独で山に行かない
- 2、登山届を出す（家人にはどこへ、どの経路でと書き残す）
- 3、無理をしない

